

令和6年度 第2回仙台市 GIGA スクール推進協議会 議事録

1 日時

令和6年10月24日（木曜日）

2 場所

仙台市役所上杉分庁舎12階教育局第1会議室

3 委員

稲垣会長、板垣委員、小内委員、高橋委員、千葉委員、中村委員、山田委員

（五十音順、全8名中7名出席）

4 事務局

岩城副教育長、松川次長兼学校教育部長、田中学校教育部参事、新妻教育指導課長、佐藤教育センター主幹、堀越学びの連携推進室主幹、西城高校教育課長、今野教育相談課主幹、渡部特別支援教育課長、高橋特別支援教育課主幹、西村特別支援教育課主任指導主事、高橋 ICT 教育推進担当課長、大竹教育指導課情報化推進係長、清和田教育指導課情報化推進係主任指導主事

5 傍聴者 2名

6 内容

（1）報告事項

- ①第1回協議会の議事録について
- ②第1回協議会の課題の説明と今後の方針について
- ③学校教育情報化推進について

（2）協議事項

- ①学びの連携推進室「ICT を活用した学力向上の取組について」
- ②特別支援教育課「特別支援教育の取組について」

7 議事要旨

（1）会長挨拶

【稲垣会長】

皆様こんにちは。会長の稲垣です。どうぞよろしくお願いします。第2回の会議ということになりますが、前回の開催から少し方向性も含めていろいろ議論を重ねて参りました。今の GIGA スクール構想に関しては、NEXT GIGA など様々な言い方があります。端末が配備され、それも古くなり次をどのようにしていくのかという段階に入ってきております。その間、学校現場で本当に色々な変化が起きて、授業の様子が変わったという話もたくさん聞いております。一方で、生成 AI であるとか、新しいテクノロジーの進化もこの数年でいろんなことが起きました。そんな中で、次の方向性を考えていく上で、適切に今の仙台市内の学校の状況をしっかり把握した上で、どんなことをしていくべきか、そういったことを議論していく場になりますので、ぜひ皆様のご協力をお願いしたいと思います。

前回の議事録も公開していただきましたけれど、たくさんの意見を出していただいて、それがそのまま仙台市のホームページに掲載される形になりますので、現場の実感のこもった意見、あるいは保護者の皆さんからの立場からの意見、たくさんいただきながら進めていきたいと思っております。よろしくお願いします。

(2) 報告事項

①第1回協議会の議事録について／第1回協議会の課題の説明と今後の方針について

【稲垣会長】

それでは次第に基づいて進めていきます。まず、報告事項2(1)と(2)について事務局から説明をお願いします。

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

(1) 第1回仙台市 GIGA スクール推進協議会の議事録につきましては、先ほど会長からもありました通り、議事録を作成した際に委員の皆様にご確認いただいているところがございますので、細かい説明については割愛させていただきます。

続きまして、(2) 第1回協議会の際に様々ないただきましたご意見等を元に、ご指摘のありました課題と今後の方針についてご説明をいたします。「資料2」をご覧ください。

第1回協議会で議論いただいた内容から、2ページに記載いたしました4つを課題と考えております。1つ目としては、「1人1台端末活用の推進」、2つ目が「仙台版情報活用能力学習目標の再構築」、3つ目は、「デジタル教科書の活用促進」、4つ目は、「仙台版 GIGA スクールステップアップ研修体系図の活用」でございます。それぞれの課題につきまして、これまでの対応状況と今後の方針についてご説明させていただきます。3ページをご覧ください。

まず初めに、「1人1台端末活用の推進」では、学校間や年齢によるスキルの格差、授業や校務における端末活用推進と改善、教科の違いによる利用頻度差の3つのご意見をいただいております。この意見を基に、第1回協議会後も含め、これまで各課で取り組んできた対応を右側に記載しております。教育センターで毎年行っている「授業づくり訪問」や教育指導課で昨年度から行っている「GIGA スクール推進担当者研修」などで活用推進した他、教員間での学び合いの場として、「GIGA コミュニティーサポート事業」を9月から開設しております。また、ステップアップ研修体系図や、令和7年度の研修内容についても検討を始めております。4ページをご覧ください。

今後の方針といたしましては、これまでの研修の受講状況を参考に、研修内容等の検討を進めていく中で、特に受講者のレベル別に合わせた研修方法や、授業での活用のあり方についての研修を検討していきたいと考えております。今年度実施したウェブサイト活用研修では、ICTのレベルを事前に調査し、レベル別にコースを設定した研修を実施したところ、受講者からも大変評判がよかったということがございました。また、教職員一人一人がどの部分が ICT 活用において苦手なのかを客観的に把握できるように、ステップアップ研修体系図の利用を促進し、研修の活用を促して参ります。第1回協議会でもご発言のありました、苦手な先生は周りの先生にちょっと聞きにくいというようなことの対策として、誰もが ICT 活用の相談が気軽にできるよう、GIGA コミュニティーサポート事業で支援できるよう取り組みを進めて参ります。これらの取り組みは、仙台市学校教育情報化推進計画にある基本方針2の(1)の①、「教員の ICT 活用指導力と研修」をさらに推進するものであり、教員全体の ICT 活用指導力の底上げを図り、効果的な ICT 活用につなげて参ります。5ページをご覧ください。

「仙台版情報活用能力学習目標の再構築」では、児童生徒や近年の状況を踏まえて見直すこと、情報活用能力学習目標リストに高等学校を含める必要、プログラミング教育のカリキュラム作成という3つのご意見をいただきました。このご意見を基に、これまで各課で取り組んできた内容、対応といたしましては、情報活用能力目標リストに基づいて、令和6年度の目標リストの更新をしております。また、第1回協議会での協議を受け、児童生徒や近年の状況、高等学校を踏まえた目標リストの学習内容の見直しについて、令和7年度に調査検討を行った上で、令和8年度の改定に向けた、計画策定の準備を行っているところでございます。6ページをご覧ください。

生成 AI など、新たな技術も次々と出てくる中で、児童生徒が必要とする情報活用能力も日々変わっていきます。それに合わせて、学習目標として定める情報活用能力についても、アップデートしていく必要があります。今後の方針としては、近年の状況を盛り込んだ改定を行っていきながら、学校

で策定している情報活用能力育成の年間指導計画の点検を行う際に、これまで以上に情報活用能力育成についての助言を行って参ります。高等学校につきましては、学習目標の再構築に加え、各学校が、学科やコースなどにより、それぞれ特色あるカリキュラムを実施しているという事情もありますことから、各高校の状況や意見も考慮しながら、情報活用能力学習目標を設定する取り組みを行って参ります。これらの取り組みにより、仙台市学校教育情報化推進計画にある基本方針1の(1)の①、「カリキュラムマネジメントによる体系的な育成」を推進し、個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実につなげて参ります。7ページをご覧ください。

「デジタル教科書の活用推進」については、デジタル教科書がすべての教科で導入されていない、学校によって利用の差があるという2つのご意見をいただきました。これまでの各課で取り組んできた対応といたしましては、指導者用のデジタル教科書の把握とともに、学習者用デジタル教科書のうち、全校に導入されている英語に関して、操作研修の実施を行っております。

8ページをご覧ください。現在の指導要領では、デジタル教科書の活用については明記されておらず、任意となっておりますが、教科にかかわらず活用を推進していくことが児童生徒の個別最適な学びにも繋がるものと考えております。まずは、現在各学校が個別に公費による購入を行っている指導者用デジタル教科書の状況把握を行い、活用推進の検討を行って参ります。また、現在、全校に英語、約半数の学校に算数・数学が導入されている学習者用デジタル教科書の授業における活用方法について、研修の充実を図って参ります。今後、他教科の学習者用デジタル教科書の導入が進んだ場合にも対応できるように準備を進めて参ります。これらの取り組みにより、仙台市学校教育情報化推進計画にある基本方針1の(2)の④「デジタル教科書副読本の活用」を推進するとともに、効果的な学びを実現するための紙の教科書とデジタル教科書の最適な組み合わせについても検討を行って参ります。

9ページをご覧ください。「仙台版 GIGA スクールステップアップ研修体系図の活用」につきましては、研修体系図から教職員がどの位置にいるのか、統計的なデータ収集を行い、教員のレベルアップを可視化するようにするべきというご意見をいただきました。これまでの各課の対応としては、様々な研修を行った後のアンケート等を活用しながら、研修体系図や研修内容の検討を行ってきたところでございます。10ページをご覧ください。

今後の方針としましては、文部科学省が全国を対象に行っている「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の結果を関係課で十分に共有し、全国に対しての本市の状況等を参考として、研修体系図や研修の企画に活用して参ります。その上で、ステップアップ研修体系図の活用促進については、小中学校では「授業づくり訪問」などの機会を利用して、教員に求められる ICT 活用指導力にはどんなものがあるか、研修体系図の使い方などを説明した上で、それぞれに足りないと感じるスキルの向上へとつなげていきたいと思っております。また、高等学校では、ステップアップ研修体系図の活用に加え、県による研修への参加も促しながら、仙台市学校教育情報化推進計画にある基本方針2、

(1)の①「教員の ICT 活用指導力と研修」をさらに推進し、あわせて教職員の ICT 活用指導力の可視化につなげたいと考えております。以上が第1回仙台市 GIGA スクール推進協議会でご意見等いただきました課題の認識と今後の方針についての説明となります。

【稲垣会長】

それでは、各委員の皆様からご質問、ご意見等出していただければと思うのですがいかがでしょうか。

【板垣委員】

最後の9ページのところでです。GIGA スクールステップアップ研修体系図から、各教職員がどの位置にいるのかを可視化することについてです。研修後にアンケートを活用してきたということについては、多分、このアンケートは、研修そのものを評価することだったり、受講者の学びを見とったり、今後の市研修の改善につなげたり、みたいなことが目的にされたアンケートではないと思います。体系図の中のどの位置にいるのかを把握することがそもそものねらいではないと思っています。ステップアップ研修体系図に入力すると出てくるシートは、デジタルでデータが取れるので、教員そ

れぞれが自分の位置を把握したものが、ひと手間加えれば自分が入力して出てきた結果を、Google Forms から入力してくださいといった形で収集すれば、校長先生が現状の把握をするだとか、教育委員会の方で仙台市全体の把握をするだとか、その変化を追うことは、データでできるようになってくのだらうと思います。もしかしたら、生成 AI にこういうプログラムを組んでくれと頼むと、良い感じのプログラムを作ってくれるので、そのプログラムをスプレッドシートに埋め込んだら、先生方がアンケートに入力するたびに、別なスプレッドシートにデータがたまっていくなどができるかもしれないと思いました。生成 AI も使いながら、ちょっと効率化しながら、色々なデータが溜まっていき、それが可視化されて、次の一手の参考になるような、そんな仕組みがあるといいなと思いました。

【稲垣会長】

少なくとも、データとして何が取れていて、それをどういう風に活用していくのかというところ、その辺りツールとして AI の可能性はあると思います。けれども、この協議会で議論を進めていくときに、結局、今やっていることは事実としてはわかりますが、現状ではどのようなになっているのかというデータが何もない状況なので、正直議論が難しいところが課題とっております。取り組みを示していただくときに、少なくとも現状がわかる形で出していただけるとありがたいと思います。もう 1 つ、関連した話ですが、仙台市の今のこの GIGA スクール推進に関しては、仙台市の学校教育情報化推進計画が令和 5 年から 9 年で策定されております。その中で、基本方針が 4 つある中で、どれと対応するのかということを少し記載していただいています。当然たくさんの方針がある中でいくつかピックアップして出しています。なぜ、これをピックアップされているのかという理由や他の部分はこういう取り組みをしているからもう大丈夫ですとか、ここはちょっと課題があるので重点的にやろうとしていますとか、そういったご説明がいただくと、現状、推進計画において、今の進捗がどうであり、だから今これを議論しているという話になると思いますので、ぜひそういったところの説明をしっかりといただけるような形になるとありがたいと思っております。

②学校教育情報化推進について

【事務局】高橋 ICT 教育推進担当課長】

「資料 3」をご覧ください。学校教育情報化推進と題しまして、直近の取り組みについてご説明いたします。2 ページをご覧ください。本市における学校教育情報化推進に関して、デジタルドリル、GIGA コミュニティサポート、ネットワーク強化、1 人 1 台端末の更新、校務支援システムダッシュボードの 5 項目について説明させていただきます。3 ページをご覧ください。

はじめに、デジタルドリルについてでございます。デジタルドリルは宿題等で、先生から提示された問題だけではなく、児童生徒が自分で問題を選んで、予習や復習などに取り組むことができます。問題が解けなかった場合には、より基礎的な問題が出題されるなど、それぞれのペースで学習することができることから、児童生徒の個別最適な学びへと繋がるものと考えております。また、教員にとっても、採点が自動で行われることから、業務負担の軽減にも繋がる他、児童生徒が取り組んだ履歴や正答率がすぐに確認できるようになっており、児童生徒の学習状況の把握がしやすいという利点がございます。4 ページをご覧ください。

左の写真は、児童生徒が実際に問題に取り組んでいる様子でございます。漢字の書き取りをやっているところです。解答後は自動で採点され、満点だった場合には、トロフィーがもらえるといったような要素もございます。右の写真は、教員が児童生徒の取り組み状況を確認する画面の事例でございます。名前は消してありますが、生徒によって進捗状況が変わっており、それぞれの理解度を把握し、個別に声掛けするなど、学習のサポートに活用されているところでございます。5 ページをご覧ください。

このグラフは、導入からの累積実施ドリル数の推移でございます。令和 5 年 4 月に導入して以来、順調に問題数が伸びております。続いて 6 ページをご覧ください。このグラフは月別の実施ドリル数の推移でございます。夏休み期間中等は実施数が減少しているものの、年間を通じて使用されている

状況が伺えます。7ページをご覧ください。

第1回協議会でもご説明いたしました「GIGA コミュニティーサポート事業」は、授業等におけるICT活用について、教員同士が学校・校種を超えて相談・助言・意見交換ができるコミュニティづくりを推進していくものでございます。8月より参加者を募り、徐々に動き出しているところでございます。「GIGA コミュニティーサポート事業」では、Google Chat を利用して意見交換等を行う「GIGA ラボ」、Gメールを利用して、情報化推進係等に気軽にICT活用の質問ができる「ICT カフェ ぴったん」がでございます。8ページをご覧ください。

「GIGA ラボ」の方では、現在、授業支援ソフト「ロイロノート」を主なテーマとしております。9月末現在で49名の参加登録があり、いくつかチャットによるやりとりが行われているところです。今後は、参加者を、テーマに応じたグループに分け、ICT教育の好事例創出及び展開、実践事例の紹介とサポートを行いながら、教員同士の学びを推進して参ります。9ページをご覧ください。

「ICT カフェ ぴったん」では、ICTを活用した授業等に関する質問を受け付け、これまでの事例などを参考に、情報化推進係を中心として、助言・回答しております。細かいことを教育委員会や教育指導課に問い合わせは、しづらいという場合もあると思いますので、気軽な質問・相談のチャンネルとなるよう運用をして参ります。続いて10ページをご覧ください。

「ネットワークの強化」についてでございます。1人1台端末の利活用推進するにあたっては、端末による通信が増えていくことが想定されますことから、文部科学省においても、十分な速度のネットワークを整備することを求めています。本市としましては、快適に利活用できるネットワーク環境は、1人1台端末の活用を推進していく中で重要なことと考えており、強化を進めて参ります。11ページをご覧ください。

こちらは、本市の教育情報ネットワークを模式的に示したものでございます。左側はこれまでのネットワークの状況です。一番下の195の学校や拠点を、28校のグループに分け、それぞれデータセンタ及びインターネットに接続しておりましたが、水色の線で真ん中に示している中央の部分が、会社などの一般利用者との共用の回線となっていたことが、十分な速度が出ていない原因ではないかということで、通信事業者等からも指摘がされておりました。そこで、本年8月から9月にかけて、右側のように、中央部分の回線を一本の専用回線に変更いたしまして、通信速度の上限を大幅に向上させたところでございます。12ページをご覧ください。

この表の左側、文部科学省が示している児童生徒数に対する推奨帯域ネットワークのスピードでございます。一番上は60人程度までの児童生徒数の学校であれば、108Mbps程度の速度、一番下であれば、841人以上の規模の学校であれば、647Mbps以上の帯域が必要というのが、文科省による基準となっております。昨年12月に、この推奨帯域をもとに、文部科学省が調査を行った結果が表の中央となっております。報道等でもございましたが、本市においても、通常帯域を確保している学校は、小規模校を中心に、10校、約5%しかございませんでした。右側の赤枠で囲われている部分は、先ほどのネットワーク強化による改善状況を本市独自に調査したものでございます。抽出した56校での調査結果で、計測時間など国の調査と完全に同条件というわけではございませんが、ネットワーク強化後は、56校のうち51校が文部科学省の推奨帯域をクリアしており、全体でも大部分の学校のネットワーク環境が改善していると考えております。13ページをご覧ください。

このグラフは抽出校56校を左から、児童生徒数が少ない順に並べたもので、灰色の折れ線が文部科学省の推奨帯域を示しております。青い棒グラフがネットワークの強化前、オレンジ色の棒グラフが強化後のスピードを表したものでございます。強化後は、大きくネットワークスピードが改善し、推奨帯域を超えている学校がほとんどであることがわかります。しかし、右側に赤いマルで囲んだ部分など、ネットワーク強化後も推奨帯域に届いていない学校もございます。調査した結果、ネットワーク機器による問題で、改善がされていない可能性が高いことがわかっており、今後も改善に向けて取り組む予定でございます。14ページをご覧ください。

「1人1台端末の更新」についてです。令和2年度末に導入した本市のGIGA第一期の端末も来年度で5年を迎え、経年劣化等のため、故障端末の増加や、バッテリーの耐用年数などが問題となって

おります。文部科学省からも、第二期における1人1台端末の計画的な整備・更新が通知されておりまして、本市といたしましても、端末の選定などを現在進めているところで、令和8年4月の更新を目指し、準備を進めております。15ページをご覧ください。

「校務支援システムダッシュボード機能」についてです。一般的にシステム等に蓄積されている様々なデータを自動的に収集・加工し、集計値や表、グラフといった、視覚的にわかりやすく一覧化した画面を表示する仕組みを「ダッシュボード機能」と呼んでおります。校務支援システムには、児童生徒の出欠の状況や成績などのデータが蓄積されており、それを学校単位、学級単位、児童生徒単位などで一覧化できるダッシュボード機能を今回導入いたしました。これにより、児童生徒の変化を素早くとらえ適切に対応できるようになることが期待されます。16ページをご覧ください。

これは、ある学校のデータを集約した学校ボードの画面例です。学校全体の欠席、早退数や保健室利用の状況、欠席者の理由等が表示されています。想定する活用例としては、例えば、児童生徒の欠席数から不登校になる前の状況把握をすることや、インフルエンザ蔓延等の推移を把握し、早期に予防対策を実施する。保健室の利用の推移を見て、けが人が多い場合には、原因の調査やけがの予防についての注意喚起を行うなど、様々なことに応用することが考えられます。続いて17ページをご覧ください。

こちらは学級単位でデータを一覧化した学級ボードの画面例です。この例では、欠席者や保健室利用者が表示されている他、欠席が続いている児童生徒については、赤文字でアラートが表示されるように設定できるなど、問題の早期発見に繋がることが期待されます。18ページをご覧ください。

ダッシュボード等から、気になる児童生徒を見つけた場合には、児童生徒ボードで個人のより詳しい、より詳細な情報を確認し、個に応じた指導したり、学級担任だけではなく、学校全体で支援方針を検討する際の参考にするなどの活用方法が期待されます。19ページをご覧ください。

校務支援システムのダッシュボード機能につきましては、9月に教員対象の説明会も実施して導入しておりますが、現在はテスト運用という位置付けとなっております。今後、教員の意見などを集約し、表示方法などの見直しを経て、令和7年の4月から本格運用を開始する予定となっております。

10ページをご覧ください。最後に、第1回協議会でも少し話題が出ました「STEAM Lab」の現状についてご紹介いたします。本市では、大学や企業との協力により高性能PCや大型モニターなど、特殊な機器を備えた「STEAM Lab」を設置し、ICTを活用した教科等横断的な学びを推進するための実証研究を進めております。昨年度から引き続き中山中学校・川平小学校と連携しながら、「STEAM Lab」の実証研究を行っております。今年度、中山中学校では、中山商店街の活性化という地域課題を設定して、「STEAM Lab」の機材を活用しながら、22店舗の商店を紹介するCM制作を行っております。CM制作を通じて、地域の願いを感じて、自分たちでできることを考えながら、学びを深めているところでございます。21ページをご覧ください。

川平小学校では、3から6学年が総合的な学習の時間で、1・2学年が生活科の中で、「STEAM Lab」を活用した教科等横断的な学習に取り組んでおります。こちらの写真にある活動は、6年生が修学旅行で学習した会津に関する内容を、5年生に伝える授業の様子です。修学旅行の内容をスライドにまとめて説明したり、「赤べこ」のメダルを作成しながら、5年生により興味を持ってもらえるよう工夫して学習を進めていました。「STEAM Lab」の実証研究としては、今年度は2年目となりまして、来年1月に予定している第3回協議会において、実施報告をさせていただく予定としております。以上が、学校教育情報化推進についての説明となります。

【稲垣会長】

それでは委員の皆様からご質問・ご意見等をお願いしたいと思います。ドリルの話とかネットワークとかダッシュボードとか色々新しいものが登場しているなという感じはあったと思います。実際、各現場で現状としてどんな風に使われているのかとか、そういった話も含めてお聞かせいただければと思いますがいかがでしょう。小学校からお願いします。

【高橋委員】

本校では、デジタルドリルをととても有効に使わせてもらっています。子供たちも使い方にどんどん

慣れてきて、最初は、銀のトロフィー、2回目で金のトロフィー、3回目でリボンと繰り返しできる楽しさがあるようで、1回やって終わりではなく、もう1回やって自分がどのぐらい覚えているかを確認するのに活用しています。また課題が早く終わった子が静かに自分の学習に向かうことができている。英語でも話してくれるので、私は聞き取れないぐらいちゃんと話してくれるので、それも学力向上には役立っていくのではないかと考えています。あと、やはり教員のレベルアップは本当に大事だなと思っています。先ほども、研修するという話も出てはいますが、なかなか研修に行く時間、学校でリモート研修をする時間というのが、結局、子供たちから離れなきゃいけない。やっぱりそれなりの時間を拘束されるという現状がある中で、必要なときに必要なことを聞いて答えていただけるサポートは、これからどんどん活用していかせたいなと思っています。それから、ダッシュボードについてですが、一目でわかるものが出てくるという仕組みは、このシステムならではの仕組みだと思います。活用していきたいと思っています。

【稲垣会長】

最後のダッシュボードに関しては、今はテスト運用中という話でした。けれども、各学校で画面が出ているという認識でよいですね。あと、デジタルドリルの話もありましたけれども、先ほどのグラフを見てもかなりたくさん使っているという経過が出ていると思いますが、おそらく、今これを学校で使っているだけではなくて、端末を家庭に持ち帰って家庭学習としてもやっている例も出ているのではないかと思います。その辺りの状況は、例えば何かログから家庭学習で結構な割合やっているかと捉えていいのか、それとも、大体基本的にはやっぱり学校での利用が中心なのかなどわかる状況とかがありましたら。

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

デジタルドリルの使用時間帯の集計がございまして、小学校だと家庭学習で、宿題等で行っているのが半分ぐらい、あとは授業での活用、中学校ですと朝学習という形で、毎朝全校で一斉に行うという学校が多いようで、その割合が半分弱ぐらいと、結構高い状態です。

【稲垣会長】

授業時間中に、ずっとドリルをやっていることは基本的にはないわけなので、先ほど高橋委員がおっしゃったように、早く課題が終わった子がやるということもあります。一方で家庭学習や朝学習など、色々な場面でやっているということがうまく周知されていると、活用が進んでいない学校にも参考になるのではないかと思います。質問させていただきました。中学校の様子を中村委員からお願いしてもよろしいでしょうか。

【中村委員】

前回、この会に参加してから、自分の学校の授業はどうなっているのかなということを注意して見るようになりました。毎日、1日3回ほど通覧していますが、毎回つつい Chromebook を使っているのは何クラスあるかなと思いながら片手で数えていました。大変お恥ずかしいお話ですが、25 学級ありますが、使っている学級が片手で数えられる範囲です。今、稲垣先生に、本校のコミュニティースクールの委員をやっていただいています。本当に申し訳ないです。そういう現状で、私が1度主任会などで、「なぜですか」と本音で聞いてみたいと思い学年主任に聞いてみました。その時に、6月か7月ぐらいだったと思いますが、「ネットワークが繋がらないのです。」「1つの学年で同じことやろうと思ったり、道徳で何か使おうと思ったときに、同時につなげようすると、誰かが繋がらなかったり、グルグル回って待ち時間があり、授業が進まないから使えないのです。」と、逆に私の方が責められる感じになりました。非常にマイナス的なところだったのですが、その後、仙台市教育委員会でも説明があったネットワークの強化をしていただきました。本当にありがたいと思います。夏休み明けに、大変繋がりやすくなったのです。だから、私もイライラしながら仕事しているときも少しあったりもしたのですが、夏休み明けに非常に変わりました。今朝は、1枚印刷しようとしたときに、すぐに印刷物が出てきたりして、こんなに違うと思いました。これからは、学校が頑張らなければいけないなと思っています。この GIGA 協議会のことは、校長会や校長会例会でも伝達していただきまして、それ聞かされた時にやる気になるのです。ところが、やってみようと思うとなかなかできないこと

が、ちょっと悔しいところもありますが、そういう機会いただきながら、こんなことができるという喜びがこの歳になって感じたりとかしています。ただ私自身は、非常に ICT に苦手な立場として多分ここに来ていると思います。まず、何が苦手かという、そのテクニカルタームが難しいです。今日も専門用語が出てきましたけれど、わからないのはメモしています。「GIGA コミュニティーサポート事業」の中で、「GIGA コム」とか「GIGA ラボ」と、横文字が出てくると、それ1つ1つ説明するために、ずっと読んでいました。最初ダッシュボード機能も、先日、研修会で伺いましたけれど、ダッシュボードなども、私ぐらいの年代のものが、わかりやすく、何かできるような機会があれば、本当にもっともっと苦手な人が得意になっていけるのかなと思いますので、そのための提案ということで今回、情報活用能力のための研修のステップとか、いろいろなものをご提案いただいていると思います。あとは、私たち現場側がそれにいかに、少しずつでも学んでいくのかということが、現場の努力が必要になってというのが、私の感想です。どれも使ってみると非常に使いやすいです。市教委の様々なご提案していただいているもの、ダッシュボードもやってみたら、不登校の子の情報などが、一発で出てくるんですね。もう素晴らしいと思いました。ですから、言葉はわからないけどやってみるという気持ちになる場面設定を教育センターとかの研修でやっていただけるような話でしたので、感謝したいなと思いますし、学校でもそのような場面をどんどん作っていかねばいけないうちなと思っています。使えば使うほど、働き方改革にも繋がるなと本当に思っています。最近は生成 AI の Copilot か Gemini とか、とにかくみんなで作ろうよっていうことで、それも有効活用するように、職員会議の中で、伝達講習しているのですが、9月の職員会議の中で、生成 AI の両方を紹介して、とにかく10分間使ってみようよということをやりました。先生方からも大好評で、先生方が有効活用できるようになってきています。例えば、そういうことを1つ1つ、小さいことでもいいので、伝えていくということは学校の使命なのかなと思いますので、やっていきたいと思ひますし、学校現場でそれを伝える立場の人、GIGA スクール推進の担当教諭の研修とかをさらに進めていただければと思っています。すみません。私の個人的な現状と課題と、そして、今後学校でやっていくべきことというところでお話させていただきましたが、市教委の様々なご提案は、私は本当に現場に沿っていて、助かるなうっていうふうに感謝しています。

【稲垣会長】

いくつかのお話いただきました。とりあえずネットワーク強化よかったです。これに関しては本当にいろいろな形で仙台市教育委員会にご努力いただいて、随分改善されたという話は、いくつかの学校からも聞いているところではあります。もちろん、もしかしたらちょっとまだ難しいというところもあるかもしれませんが、やはりこういったところでストレスたまってしまうと、活用の本当に大きいハードルになってしまいますので、そういったところを解消していただいたのはよかったとは思ひます。あと、コミュニティーの話がちょっと出ていたのですが、その関係で私も1つ確認したいと思ひったことがありました。先生方同士の学び合いの関係を作っていくことはすごく大事だと思ひますが、内容によっては ICT 支援員との連携の中で解消できることもあると思ひますね。コミュニティーサポートの話と支援員事業はどうなっているのか、そのあたりについて補足情報をいただきたいと思ひます。

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

確におっしゃる通り、ICT 支援で解決できることも中にはあると思ひます。ただ、ICT 支援員は、基本的には授業とか教育の中身には踏み込んでほないので、その点はやはり先生同士でやっていただくという場合分けといひますか、すみ分けができるのかなと考えていることと、ICT 支援員がいつまで続くかが不明な状況もあるので、そういう場合に備えて、先生たちのコミュニティーも作るのもよいのではないかとあります。

【稲垣会長】

少なくとも、ICT 支援員が今いらっしゃる状況であり、文部科学省の方でも ICT 支援員が必要だという前提で進んできていますので、場合によってはこういうコミュニティーサポートに ICT 支援員の方も入っていただくことで、より細かい操作の話とかは支援員の方がすぐ答えてくれる。そうではな

い授業の話のところでは先生同士でやっていくという、ちょっと広い意味での学び合いができるといいと思います。

それでは、続いて、山田委員からお願いします。

【山田委員】

第1回目の会議が終わってからすぐに、ICT教育推進担当課長の高橋課長、それから清和田主任指導主事、そして教育センターの目黒指導主事の3人が、学校にご来校いただきまして、学校の現状と先生方、生徒の困り感を色々と吸い上げていただきました。そこで、いただいた助言をもとに、先生方の研修というような方向性も見えてきました。早速、夏休みに第1回目のICT活用研修を本校の若手の先生2人を講師として、不登校対応の生徒に対して、それに対応するためのリモート授業が全員できるようになるための研修を行いました。もう1つは、生成AIの活用研修を行いました。やはり、若い先生方が本当にステップを踏んで段階的に優しく教えてくれたおかげで、先生方の満足度も非常に高く、「100%みんなリモートできるね」というようなことを実感することができたのは、とてもよかったかなと思っております。その後、校内でも、ICTの活用を進めていこうという機運が少しずつ高まってきて、先生方同士が気軽に聞くというようなことが職員室の中で出るような感じになってきているところは私自身も見取しております。また、教頭先生からの報告でも上がってきているところでございます。先日、学校の文化祭を行ううえで、大志高校では学校の関係上、外部の人は入れずに保護者もPTA役員さんだけというような中で文化祭を行ってございました。けれども、ぜひ保護者に見せられる方法はないかというようなことで、YouTubeで保護者向けの限定配信のアイデアが、先生たちの中から出て、ステージ発表を保護者、それから生徒にも家に帰ってからでも見てもらえるような感じで、300を超えるようなアクセス数があり、非常に好評でした。

先生方が一步一步自分たちで進めていく中で、「自信を持って進めていけるな」ということで、12月24日に第2回目の活用研修を実施します。それから、若手の先生たちが、自分たちでICTの活用集というような事例集をちょっと作ってみて、1人1本ずつ事例を持ち寄って、6つから7つぐらい校内の先生に紹介して、働き方改革に結びつけていければという話もあり、内容がよければ高校教育課を通じて高校の先生方、また小中学校の先生も使えるのであれば、情報化推進係から、共有できればいいと思っていたところです。実際、学校回線の話が出ましたが、本校では、C4thで出欠をすぐに入力しなければならないというようなところの決まり事がある中で、回線が混雑して大分先生方がストレスを感じていたところでありました。けれども、回線が太くなってからは、本当にストレスフリーで行うことができ、とても回線工事はよかったところでございます。

また、資料を拝見して、こちらの小中学校のデジタルドリル活用の様子で、端末の起動が本当に早いので、家に帰ってすぐかばんから出して勉強に取り組むといった、短時間で自分の勉強がすぐに始められるというようなところであったり、自分の進み具合で上位の問題が出たり、つまりきのところで同じような問題が出て、最終的に到達の度合いが出るということが続けていくことは、本当に素晴らしいものだと見ておりました。

最後にダッシュボードのところですが、本校は先ほどお話ししました通り、出欠等々はすぐにC4thに担当が入力しなければならないことや通常あるホームルームが、週に1回しかないというようなところで、このような学級ボードで、生徒の出欠状況がすぐに把握できるっていうようなものがあれば、担任にあたるチューターは学級ボードを見て、すぐに生徒が受講している教室に行き、対応することができるということで、本格運用はすごく期待感を持てます。児童生徒ボードは、生徒の個別のいろいろな特徴等を、私たちは紙ベースで持ち歩くところを、端末の中で見ることであれば本当にセキュリティの部分でも安心できるという思いで見えておりました。

【稲垣会長】

最後セキュリティの話もありましたが、仙台ではないですが、他のところで先生が個人の情報を校内に置いて、それで情報が漏れてしまったり、そういった状況も出てきている中で、デジタルで管理することによって安全に運用できる一つの事例だと思います。それから、ネットワークの話もありました。生成AIの話が中村委員のお話にもありましたが、だいたい先生方の働き方改革などで実用的にな

ってきたと思っています。文部科学省でも、暫定的なガイドライン改訂に向けた議論が進んでいるところですが、仙台市でも生成AIをこういうふうに活用しているという事例を、発信していけるといいと思っています。そう思いながら仙台市のGIGAスクールサポートサイトを改めて見てみましたが、まだ令和5年の状況のままになっておりますので、ご確認のほどお願いしたいです。

先ほど、大志高校の「事例の話を発信していければ」ということでしたが、一時期、GIGAスクールサポートサイトでも結構色々な学校の事例を出していましたが、高校の事例はあまり無かったと思います。ぜひ、今後展開していただけると、小中だけじゃなく高校も進んでいることを、仙台市としても発信していくことは非常に大事なかなと思っています。

【板垣委員】

今のところ、ちょっと関連するかしないかというところもありますが、デジタルドリルの活用が進んでいるところで、4ページ目で見せていただいた画面を先生が見たときに、子供たちの学習の状況がどう進んでいるかという画面が見えていますが、朝学習のときにみんなでやるとか、先生の主導のもとで学習するということがあれば、例えば、早く終わった人は自分で学習進めるとか、家庭学習かもしれないですが、子供たちの判断で学習するというところもあると思います。そうなったときに、せっかくデジタルドリルに残っている情報を子供たち自身も、自分の学びを振り返るとか次に生かすというところで、有用ではないかと思っています。子供たちが学習ログやデータ活用するみたいな話は、すでにあたりするのでしょうか。質問です。

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

本人は自分がどれぐらいトロフィーをどこで取っているかは見えています。けれど、それを活用してというような話は、まだ出ておりません。

【板垣委員】

多分、子供たちも、トロフィーをもらって嬉しいとか、それを集めていくとか、継続するところで、ゲーミフィケーションみたいに子供たちにとっても、刺激になるような仕組み、仕掛けもいっぱいあるのではないかなと思っています。学習者として自律するといいますか、先生がいなくても、自立して学ぶみたいなことを考えたときにそういった話も少しずつ増えているといいなと思っています。

【稲垣会長】

いわゆる個別最適な学びであるとか、自己調整であるとか、そういったところに関するコメントをいただきたいと思います。このあたりについて、仙台市の情報化推進計画の中でも基本方針に入ってますので、その基本方針入っている「個別最適な学び」は、今どれぐらい進んでいるのか、「協働的な学び」、「探究的な学び」もあったと思うのですが、そういったところも今度ご報告いただけるような形で進めていただけると良いかと思います。

PIAの立場からもぜひコメントいただければと思うのですが千葉委員からお願いします。

【千葉委員】

子供も中学3年生になりますので、なかなか家で勉強している姿というのを直接見る機会がなくなってきました。周りの父兄の話を聞いたりしていても、受験の話が目の前に差し掛かってきて、かなり不安定になり学校に行くのも足が遠のいてきているなんて話も聞いておりました。その中で、中学校だと担任の先生と、長い時間共にすることがなかなかないので、教科担任だったり、別室登校や「ステーション」の方に行ったとしても、なかなか担任の先生とゆっくり話す時間もなくて、空いている先生と、その場その場で話す時間しかない。そうなってくると、なかなか深いところまで話ができないのだというところで、保護者の方もそういった色々な面で、一番知っている先生は誰だろうというところが漠然と抱えている状況が増えてきている感じがしました。ただ、その中でも、ダッシュボードの形で子供たちの日々の保健室の利用状況とか、欠席状況とかがこの端末で色々な先生方が知ることができるのだということがわかって、ちょっと安心したかなと思っています。その子の最近の動向変化というものを共有していただいて、先生方に個別対応していただけるのかなと思います。どんどんそういった形で、寄り添ってもらえればと思っています。また、最近、中学生のファイナ

ンスパークに行ったときも、このChromebookを持ち込んで、帰ってきてからもまとめに取り組んでおりました。その前後で学校から学びポケットで連絡がきて、「子供がChromebookを持ち帰ったので子供IDでアンケートに答えてください」というような内容でした。そこで本当に久しぶりに子供と一緒に、Chromebookを前にして、「ああだ」「こうだ」と言われながらも、アンケートに答えたのです。けれども、これもすごくいいものだと思いました。そうすることで、やっぱり保護者も覚えようと思って一緒にやって、親子のコミュニケーションの場にもなりますし、学びの場にもなります。分からないと子供に馬鹿にされながらも、子供も楽しんでいる風景もありましたので、そういった機会をどんどん増やしていただけるとありがたいと思いました。

【稲垣会長】

やはり今は、どちらかというと担任の先生が全部丸抱えで子供に接するというよりも、色々な先生方で情報共有しながらやっていくという形になっていくものを支える道具として、こういったもの上手に機能していくといいかなと思います。それが保護者の方、あるいは生徒にとっても、安心に繋がっていくのも非常に理想的かなと思っております。そういう意味では、ダッシュボードのような話を作ったときに、保護者の方や、生徒自身がどういう情報が共有されているのか、それを知る機会ってそんなに、まだないのではないかなと思うのですが、そのあたりについてどのように保護者の方に説明していくのか、方針は教育委員会であったりするのですか。

【事務局 松川次長兼学校教育部長】

学校の中にある情報というのは、どのようなものなのかということですが、出欠の情報も保健室利用もそうでしょうし、これまでだと紙で記録簿をつける、そして、それをある先生が担当して集約する、そして管理職の先生がまとめる等のことをやっていたということです。

今までもあった情報だとは思いますが。これを見やすくまとめるというのは一つの、新しい手法なのだと思います。先ほどありましたけれども、保健室の利用状況というのは、別な簿冊、出欠状況は別な簿冊となっていたら、これを照らし合わせるということは、容易にはできないわけで、しかもそれを毎日のタイムラインとして見るというふうになってくると、この日どうだったかなという、この子の動き、あるいは学級の中の動きっていうのを見ていくのは、今までできなかったのだろうと思います。これが見やすく、一画面でというところになるのは、今まであった情報をうまく活用しているところだと思っています。教員の働き方改革の話もちよっと途中でまぎりましたけれども、やはりこれを先生たちが、紙だけで見ているとできなかったことを素早くやるということで、十分時間をつくり出して、本当に必要な子、リアルな子供たちと向き合う時間を作るところに使わせていただくということだと考えています。そのあたりの情報発信は、ダッシュボードを本格利用するときに、学校ともよく共有しながらやっていく必要があるかなと思いますので、ご指摘受けとめながら進めてまいりたいと思います。

【稲垣会長】

自治体によってはこういうのを突き合わせて、例えば不登校になるリスクがどのぐらいあるかというのを判断するといったところまでやっているところもあります。けれども、どこまでやるかは保護者、あるいは子供たちにどう説明していくか、教育データの活用が大分入ってきた中で、ある程度方針を示さざるをえないとこだと思います。先ほどお話があった通り、本格運用前のところで、教育委員会としてのスタンスを情報提供できるように進めていただけると良いかなと思いました。あと、細かいところではありますが、ファイナンスパークの話がありましたが、端末を持っていったということは、そちらの方でもネットワークが繋がる環境だったということなのですか。

【事務局 堀越学びの連携推進室主幹】

子ども体験プラザのファイナンスパークでも、ネットワーク環境を整備いたしまして、前までは冊子で進めていたところを、昨年度からChromebookを使ってプログラムを進めていくというふうに変わっております。

【稲垣会長】

いいですね。仙台市内色々な施設がありますし、社会教育の中でも、色々なセクションがあると思

いますので、そういったところに子供たちが端末を持って行っても使える状況を作っていたら、良いのではないかと思います。では続いて、小内委員からもコメントいただいてもよろしいですか。

【小内委員】

色々お話を聞いていて、高橋委員もおっしゃっていましたが、先生たちが捻出する時間がものすごいことになっているのではないかと、思っていました。その時間を捻出するためには先生たちのやる気次第になってしまうのかと。先生たちも、家に帰ればお父さんお母さんだったりするので、家に帰ると、お子様たちのこともあるだろうし、それに輪をかけて学校の子供を見なきゃいけないとなると、時間の活用って大変なんじゃないかなと、思っていました。

【稲垣会長】

働き方改革にどうこういった環境が使えるかと、その研修として勉強しなければいけないことのバランスみたいなのところですかね。その辺り、勉強しなきゃいけないってことが増えていくことと、勉強したことによって働き方改革が進んで、時間が捻出できるようになっていくというところは微妙なところだと思うのです。けれども、実際、学校現場の感覚としてはどうですか。

【中村委員】

感覚的になるのですが、ICTが進んできたことで、随分軽減される業務も増えました。一番はやはり校務支援システムC4thですね。例えば今、松川次長からも、紙で色々な情報を今まで集めていたというお話もありましたが、出席簿は、毎日、一人一人の生徒たちが1時間目から6時間目までどんな授業をしたとか、この時間に保健室に行ったとか、もしくは欠席したとかいう情報を、今まで全部紙に毎日、まとめて、その日の出席の生徒数を紙に入れて、それを職員室前の黒板に書いて、それを全部学校日誌に全クラス分、日直さんが写すということを毎日続けていながら、1人の子供の欠席日数1学期は何日かということをやっていたのです。ところがC4thで、その日その日の情報を、タブから選んで、腹痛欠席とかを入れるだけで集計は、ボタン1つでできるようになったのです。慣れるまでは大変でしたけれども、慣れたら本当に、「紙でやっていたのだよ」「計算機で計算していたのだよ」という年代の者は、なんでこの人古い人だと思われるぐらいに今変わってきていますので、本当にお優しいご意見で、教員のことを思ってくれて嬉しいなと思いつつ、やはり、稲垣先生がおっしゃったように、進めることによって、軽減されることも随分増えているのです。ただそれが、やはり少しずつなので、そのバランスというか、無理しないでできる環境だと、急がず休まず、進めていける、そういう環境だといいいのかなと思います。

【稲垣会長】

実際、このGIGAスクール構想は、政府の構想自体が、2019年の12月に発表されたのですけれども、最初は、何年かかけて、順次端末を配っていきながら、学校現場が変わっていくといいねという、そういうプランだったのです。それがコロナ禍で、前倒しで端末を一気に整備しようということで、2020年度、21年度は大変だったのですよね。そのパタパタとした大きい変化を何とか乗り越えながら、だんだん折り合いがついてきて、ちょっとこういう成果も見えてきたという、そういう段階で今、次を迎えつつあるというところに来たのかなと私も見ているところです。あと、そういったことも含めて結構働き方改革が進んでいるということも、保護者の方から見たらあまり見えないところですね。連絡手段がデジタルになったりとか、そういったところは実感されていると思うのですけれども、そういったところについてはGIGAスクールサポートサイトだと、実践の紹介としてはあるわけです。例えば、校務はこんなふうに、楽になっていますよと。あんまり言うとなんかもっと働けてなるのでしょうか、わかりませんが、でも、学校自体もDXが進んでいるんだということは、ぜひ発信していただくことは大事なかなと思います。あと、先ほど千葉委員のコメントについて言い忘れたのが、保護者が学ぶ機会についてです。これに関して、私自身もつい先々週、仙台市内の学校で保護者向けのGIGAスクールの勉強会をやらせていただいて、子供も来てもらって、2年生3年生ぐらいの小学生の子たちが、お母さんにスライドの作り方を教えるみたいなことをやっていたのです。そういったところで、子供のコメントでも、お母さんに教えるのが大変だったとか書いていて

面白かったのです。でも、そういったところで保護者の方も、これだけ子供たちの学びが変わってきているのだということ、それこそ大学入試だったりとか、そのあとの働き方に繋がっていくということがその先にもありますので、ぜひそういった機会をこれから増やしていけるような施策を何らかの形で取り組んでいただけるといいのではないかと考えております。

(3) 協議事項

①学びの連携推進室「ICT を活用した学力向上の取組について」

【稲垣会長】

協議（１）、学びの連携推進室からお願いします。

【事務局_堀越学びの連携推進室主幹】

それでは、ICT を活用した学力向上の取組について、ご説明させていただきます。２ページをご覧ください。初めに、全国及び仙台市における学力検査等の動向についてです。全国学力学習状況調査では、令和５年度に英語の「話す・聞く」において、１人１台端末を活用し、令和６年度から、児童生徒質問紙調査をCBTで行っております。それに合わせ、仙台市でも、令和６年度の生活・学習状況調査をCBTで実施しております。令和６年度は64,507名が受験しております。調査項目といたしましては、スライドにあるとおりとなっております。それでは、実際に委員の皆様にもCBTの調査実施につきまして、体感していただきたいと思います。スライド２ページの一番下にあります、URLから、実際に今年度、子供たちが受験したCBTに入ることができます。30秒ほどお時間を取りたいと思いますので、ご自由に体験していただければと思います。

【稲垣会長】

やっていたいている間に補足すると、CBTとは、「コンピューター ベースド テスティング」の略で、パソコン上でテストとか、アンケートとか答えられる、そういう仕組みの一般名称ですということを一応お伝えしておきます。

【事務局_堀越学びの連携推進室主幹】

調査をCBTで行うことで、その結果をいち早く学校に提供することができ、夏休み前にはその結果を反映した指導を行うことができるようになります。学力向上には、学びに向かう力が必要であり、生活・学習状況の改善が、確かな学力へと繋がっていくものと考えております。

３ページをご覧ください。続いて、家庭学習についてです。仙台市では平成19年度に「家庭学習ノート」を作成し、平成20年度から市内全小学校の３年生と５年生に配布し、親子で家庭学習に取り組む事業を実施してまいりましたが、デジタルドリルの全市導入等を踏まえまして、探究型自主学習の推進を図ることを目的に、令和５年度、市内の先生方7名と、教育委員会の指導主事等から成る家庭学習推進検討委員会を発足いたしました。次のスライドをご覧ください。検討委員会では、家庭学習ノートに変わり、家庭学習を支援するサイトの立ち上げを検討しております。今年度、委員の先生方からのご意見とともに、外部の3名の方々からもご意見をちょうだいいたしました。色がついている箇所が、3名の方々からいただいたご意見となります。「マイプロジェクトノート」は、子供たちの興味関心を大切に、自ら学びたいという子供たちの思いを生かした考えとなります。興味関心がある事柄について探究し、調べたことや分かったことについて、ノート形式で取りためていくという内容となります。次に、「知識資本」についてです。探究学習を行うにあたっては、学習習慣や学習環境を整え、基礎的な学力を身につけることも大切だという考えとなります。最後の「心のエンジン」は、子供たちが自ら学んだことに対し、周りの大人たちがその努力を認めることが、子供たちの自己肯定感に繋がり、学習意欲が向上するという考えとなります。3名の方々から、大変貴重なご意見をいただきました。学びの連携推進室では、これらの意見も鑑みながら、子供たちが主体的に学びに向かうことができるサイトの作成を考えております。仙台市では、他の自治体のサイトも参考にしながら、仙台市では今年度中のサイトの立ち上げを目指し、現在作成中でございます。

6ページをご覧ください。最後に、学びの連携推進室で作成しているサイトの中から、学力向上に繋がるサイトを2つ、ご紹介したいと思います。1つ目は、「学習意欲の科学研究プロジェクト」

の令和4年度版についてです。学びの連携推進室では、東北大学と連携いたしまして、仙台市で行っている生活・学習状況調査と学力検査の相関関係について分析し、毎年リーフレットにて配布しております。この年は、大学の先生方から声のコメントをいただき、リーフレットにQRコードをつけまして、その大学の先生方のコメントをご覧いただけるようにいたしました。川島教授を中心に3名の有識者方からコメントをいただいております。続いて、「確かな学力研修委員会レベルアップ研修」についてです。仙台市標準学力検査から見えた課題について、確かな学力研修委員会を組織し、委員会で検討した指導改善事例を市内の先生方に紹介し、指導の改善を図る事業となります。番組表を作成いたしまして、各教科、4コマの中から自由に選んで研修に参加するものとなっております。昨年度は486のアクセスがございました。複数で見ている学校もございますので、実人数はさらに多い人数となっております。学びの連携推進室におきましても、ICTを活用した取り組みを行っているところです。今後も子供たちの確かな学力を育成するために、ICTの活用を推進してまいりたいと考えております。

【稲垣会長】

学びの連携室の取り組みについてのご質問コメント等ありましたらぜひお願いします。私から少し確認ですが、家庭学習の話のところで、学びの連携で新しいサイトを作っていくというお話を伺いました。先ほど各委員の先生方からのお話の中でも家庭学習で、例えばドリル教材を使っているとかお話あったわけですが、こちらで別に新たにドリルを作るとかそういうわけではないという理解でいいですか。

【事務局_堀越学びの連携推進室主幹】

ドリルというよりは、子供たちの興味関心を引き出すためのサイトにしたいと考えております。コンテンツも子供たちの実態を考えながら、作成していきたいと考えております。

【稲垣会長】

自ら学びたいと思うテーマの探究とか、そういった言葉も入っていましたので、そういった学習に繋がるようなものを作っていただけるといいかなと思います。Webにアップする話でもう1個確認ですが、2ページ目のところで、先ほどCBT体験させていただいたのですけれども資料のIDパスは外に出る形になりますか。

【事務局_堀越学びの連携推進室主幹】

これは本会議のみ使用できるIDとパスワードになりますので本会議が終わりましたら、削除いたします。

【稲垣会長】

わかりました。そうであれば、Webに載せるときは、CBTのスクリーンショットで構いませんので、1枚挟んでおいていただいて、こういったものですよというものを入れといていただけるとよいです。その他、皆様いかがでしょうか。無さそうなので、もう1個だけコメントしていいですか。最初に、全国学力学習状況調査の話がありましたが、どちらかというと教育指導課の話との関係なると思うのですが、今GIGAスクール構想がどう進んでいるか、現状把握の指標として、教育の情報化に関する実態調査、文科省の方でやっているものが指標にはなっているのですが、最近割と他の自治体で聞いているのが、学力・学習状況調査で学び方としてどういう学び方をしているのかとか、そこでどうICT使っているのかという設問があったと思うのですね。今は、そちらの方で議論している自治体の方が増えている状況ですので、ぜひちょっとそのあたりの情報も今度出していきたい。データとしては学びの連携推進室の方では、把握されている情報なのでしょうか。

【事務局_堀越学びの連携推進室主幹】

生活学習状況調査でICTの活用について「学習のために使っている」という設問がありますので、どれぐらい子供たちが学びのために使っているかという数値は、持っております。

【稲垣会長】

探究的な学びとか、個別最適な学びの推進状況の評価指標にもなっていますので、そのあたりのところをうまく活かしていただけるとよいかなと思います。こういった形で今年度は、色々な部署からの

情報提供をしていただきながらやるのは、GIGA スクール自体が教育委員会の中でも個別部署の話だけで収まらなくなっているという1つの証左なのかなと思います。

それでは続きまして、特別支援教育課からお願いしたいと思います。

②特別支援教育課「特別支援教育の取組について」

【事務局_渡部特別支援教育課長】

特別支援教育課の事業から ICT 機器の活用に関連する事業並びに鶴谷特別支援学校における ICT 機器の活用状況を報告いたします。スライド2ページをご覧ください。まずは、「療養中等の児童生徒に対する遠隔授業推進事業」でございます。事業開始時は、市教委で契約した iPad を入院中の児童生徒とその在籍校に貸し出し、オンラインにて学習機会を保障いたしました。その後、1人1台端末が配置されたことを受け、令和3年度から、通信環境のみを市教委として準備し、令和5年12月からは、事業の対象を拡大するために、現在の事業へと形を変えております。市教委で準備した機器の活用状況、並びに遠隔授業の実施状況は、スライドの下にある通りでございます。

3ページをご覧ください。次に、ICT活用推進事業についてです。1つ目として、「マルチメディアデイジー教科書」の利用についてお伝えします。「マルチメディアデイジー教科書」とは、日本障害者リハビリテーション協会が作成したものであり、いわゆる音声教材です。読み上げ機能がついており、1人1台端末で利用することができるものです。市教委で一括して利用申請をしており、ここ数年、この表にある通り、発達障害をはじめとして、読みに苦手さのある児童生徒の助けとなっております。4ページをご覧ください。2つ目として、個人が所有するタブレット端末の持ち込み利用について説明いたします。この事業は、読み書きなど障害に起因する生活または学習上の困難を補うための合理的配慮としての使用に限り、持ち込み使用を認め、児童生徒のより効果的な生活や学習の支援につなげることを目的としております。この表にある通り、ここ数年、10から20名程度の児童生徒が個人所有のタブレット端末を持参して活用しています。主に活用しているのは、弱視、あるいは書字に困難さのある児童生徒です。弱視のある児童生徒について具体をお話しますと、その多くが

「UDブラウザ」を利用しており、教科書の必要な部分を拡大したり、見やすいように、背景の色や書体を変更したりしながら、自分自身が学びやすい学習環境を整えて学習に参加しております。書字に困難さがある児童生徒は、タブレット端末で板書を撮影して印刷したものをノートに貼る、撮影したものを手元に置いて書く、あるいは「グッドノート」という、撮影したものに書き込みができるアプリを用いながら、自分にとってわかりやすいノートを作成する、という様子が見られております。5ページをご覧ください。続いて、鶴谷特別支援学校における取り組みの中から、入出力支援装置をはじめとした ICT 機器の活用についてお伝えいたします。まず、スライド左上の視線入力装置「Tobii PCEye Mini」を活用した事例です。対象は、発語がなく、身体の意図的な動きが取れないため、本人の意思確認をすることが難しい児童生徒です。後程、映像にて紹介をいたします。次に、スライド右下の「ジョイスティック型マウス」と「USB スイッチ」を活用した事例です。対象の生徒は、不随意運動、つまり自分の意思とは関係なく体が動いてしまうことが多く、マウスの操作が難しい状況です。そこで、「ジョイスティック型マウス」の持ち手をT字型に付け替え、軽い力でも持ち手を握れるようにした結果、PowerPoint による二者択一の学習に取り組むことができました。続いて、実際に取り組んでいる様子を映像でご覧いただきます。iPad に標準装備されている「Pages」のアプリを活用して自分づくりノートを作成している取組をご覧ください。お気に入りの写真を選択し、指でスライドさせながら枠に当てはめていきます。スライドさせながらの入力は非常に取り組みやすいという報告を受けております。また、担任の促しに応じて名前を入力をしています。文字の入力についても、キーボードではなく、スマートフォンや iPad で慣れている形の入力であることから、使いやすさに繋がっております。次の動画は、視線入力装置「Tobii PCEye Mini」を活用した取り組みです。画面上のカーソルが生徒の視線に反応して動き、自分が鳴らしたい楽器の音を聞くことができます。終了後に視線の動きについて履歴を確認することができます。それぞれの楽器がある場所にカーソル、すなわち視線が動いていることがわかり、対象児童生徒の意思表示の1つの手段となることがわかり

ました。他にも特別支援学級や通級指導教室における活用、通常の学級に在籍する発達障害のある児童生徒への合理的配慮としての活用など、1人1台端末を利用した実践が増えてきておりますが、ここでは時間の都合上省略をいたします。以上で、ICT機器の活用に関連する当課の事業並びに鶴谷特別支援学校におけるICT機器の活用状況の報告を終わります。

【稲垣会長】

特別支援での取組でしたけれども、GIGAスクール構想の「GIGA」という言葉は、「Global and innovation Gateway for All」の略なのです。最後のfor Allというのは、「すべての子供たちに」という意味で、学校に来ている子供たちだけでなく、不登校の子供たちも、療養状態の子供たち、特別に支援が必要な子供たちも含めて、すべて子供たちに、こういったデジタルでの学習環境を整えていこうという、そういう取り組みなのですね。その意味からも非常に意義のあるご報告をいただいたと思っております。まず、ざっと背景だけ説明しましたが、何かしら本件についてコメント、ご意見・ご質問等ありますでしょうか。特に小中の特別支援のこととか、高校でもし何かありましたら、ぜひお願いします。

【山田委員】

3年前までの、2年間、鶴谷特別支援学校に勤務していたのですが、当時ちょうどコロナ感染症が始まったばかりで、子供たちが家庭で過ごす時間が長い時期がありました。

そのような状況下で、どういう形で子供たちに学びを提供していくのかということを教職員が色々考えていく中で、「鶴特体操」というものをYouTube上で配信して、家庭でできるようにしたことを思い出しながら、見ていました。あれから数年間で、子供たちが自分の意思を表示することができるよう、デバイスやソフトウェアの発展が本当に目覚ましく、このような形で特別支援学校に在籍している子供たちに対しても、ICTを活用した教育が本当に進んでいるのだなというようなことを実感することができました。

【稲垣会長】

ここ数年で、環境が随分良くなってきた部分もあります。特別支援教育の中でも、以前からテクノロジー利用を頑張っていたものが、大分手に入りやすくなったり、あるいは端末側である程度カバーできるようになったり、そういうところが成果なのかなと思います。ちょっと確認させていただきたいところとして、「マルチメディアデジ教科書」の話がありましたが、各教科書会社が販売している「学習者用デジタル教科書」があると思いますが、どちらにも読み上げ機能があたりとか、ふりがななどいろいろな機能がついていたりしますが、そういうのにだんだん移行しつつあるのか、それともこれはこれでやはり活用していく意義があるのか、その辺りをもしわかりましたら教えていただけるとありがたいです。

【事務局 渡部特別支援教育課長】

具体については、十分に情報がないところがございますが、「マルチメディアデジ教科書」には長い歴史があり、細かい配慮もなされています。自分が見やすい色にハイライトされた部分が、自分に適した速度で動くように設定することが可能であるということなどは、マルチメディアデジ教科書の使いやすい点であると思っております。マルチメディアデジ教科書で可能な動作が、他のプラットフォームでどのように対応できているのかということについては、十分に研究をしておりますので、今後、どのように移行していくのかということにつきましては私たちも注視していきたいと思っております。

【稲垣会長】

おそらく、障害の状況、程度によっても、こういった端末、こういったやり方が向いているのかは色々あると思いますし、そういった情報提供は特別支援学校でやっていることと、いわゆる小中学校の方で、特別支援学級の方でやっておられることとの間でどのようにされているのかという話が今後わかってくると、より良いのかなと思い、質問させていただきました。後半の事例も幾つかご紹介いただいたのですが、これも「GIGAスクールサポートサイト」の中に特別支援系の事例はこれまで載ってなかったと思います。ぜひこのような情報も載せていただけると、ご家庭にとってもすごく安心材

料になりますし、事例の共有が進んでいくといいと思い拝見させていただきました。

【板垣委員】

ちょっと興味本位ですが、ジョイスティック型マウスの持ち手の部分の形を変えてみたいな話があったと思うのですが、その持ち手は、交換用のものがあつたのでしょうか。

【事務局_渡部特別支援教育課長】

正確な情報ではないかもしれませんが、市販のものがあるということでございます。

【板垣委員】

特別支援の子供たちがそれぞれ多様な問題を解決したいことがあって、その1つ1つに対応しようとしたときに、市販のものだけだと対応できないようなことも出てくるのではないかと思います。そのようなときに、STEAM Lab だけではないのですが、3D プリンターだったり、レーザー加工機だったりを使って、売っていないものを自分たちで作り出すことができるツールなどを、手に入れた状態ということだと思いますので、有意義な活用の新しい方法だったり、解決したい問題が解決するようなことが、起こっていくといいと思います。特別支援という文脈ですけど、アシスティブ・テクノロジーみたいな、問題解決の中のものすごくわかりやすい個別最適な例だと思い、案外このようなところから、特別支援学校に限らず、一般の学校にも適用できるヒントがたくさんあるのではないかと、そのきっかけになりそうだと思って聞かせていただいていたいました。

【稲垣会長】

調度、STEAM Lab の話も絡めてコメントいただいたかと思います。次回、そういった話についてもご報告いただけるという話だったと思います。現在、3D プリンターやレーザーカッターがあるとか、デジタルのものづくりができる学校が、仙台市内は小中1校ずつしかないのが現状です。今後どう広げていくのか、近くで言えば多賀城市や岩沼市もやり始め、いくつかの地域で同じような動きがあります。場合によっては、特別支援学校などで使っていくということが一つの考え方もかもしれないなと思いました。そういった施設自体を、学校と共用して使っていくなど、今後、色々な可能性としてぜひ探っていただくためにも、「こういったことにも使えるよ」という具体的な役に立つ事例がたまっていくといいのかなと思って伺っておりました。

(4) その他

【稲垣会長】

その他、仙台市の学校教育の情報化全般についてご意見ご質問等ありましたら。

【高橋委員】

先ほど、ファイナンスパークに端末を持っていったというお話のときから気になっていましたが、仙台市内の他の社会教育施設のネットワーク環境は、どのようになっているのかを教えてくださいと思います。

【事務局_松川次長兼学校教育部長】

正確に今わかる者がいないのですが、社会教育施設でWi-Fi 環境は進んできているところです。例えば、児童館でもそうかもしれませんが、持ち帰った端末をどこでつなぐかという、家だけじゃないというのも十分あると思っています。

Wi-Fi が通っています、そして、パスワードが公開されています、というところであれば、基本的にはつながることができるということになってきます。社会教育施設でもかなり進んでいるはずですので、調べて、共有させていただきたいと思います。

【稲垣会長】

すごく大事なことだなと思っていました。Wi-Fi の環境はもちろんそうですが、もう一つは、例えば仙台市の科学館、メディアテーク、天文台など、色々な施設があるわけですが、そこにおられる職員の方々、学芸員の方々が、仙台市のGIGA スクールのアカウントを持っているかどうかという、今はアカウントがない状態ですか、それともアカウントを渡す状態ですか。

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

個人アカウントではないですが、組織アカウントとして利用できるものを配付しています。

【稲垣会長】

そうすると、例えば天文台のプログラムに、仙台市の子供たちが一緒に Google クラスルームに参加できたり、Google Meet で繋がったりすることができる環境があるという理解でいいですか。具体的な取組としては何かありますか。

【事務局_高橋 ICT 教育推進担当課長】

具体的には聞いておりませんでした。

【稲垣会長】

もったいない話だと思いますので、ぜひそういった事例が動いて、子供たちが直接出かけて行って体験するってことは大事なわけですが、事前事後の学習や自由に自分の興味関心を探究していくときには、当然、社会教育の力は非常に大きくなると思います。そういったときの子供たちのアクセス先として、それぞれが専門家につながれる、そんな取り組みが生まれると、GIGA スクールは非常に面白いことになっていくと思いますし、政令指定都市はこういった施設をたくさん持っている自治体だからこそできる、そういった取り組みにもなるのではないかと考えております。先ほどお話が出た児童館の話も、児童館でも子供たちが宿題をすることに使われることを考えると、環境は必要かなと思います。児童館の整備状況はどんな感じなのでしょう。

【事務局_松川次長兼学校教育部長】

児童館の所管が、こども若者局なので、どう進めているかということと、指定管理者が入っている場合は指定管理者が独自に設けるケースもあるようなので、他の社会教育施設も同じで一概には言えないかなというところはあります。ただ、見聞きした範囲では、「児童館に端末を持っていき宿題をしました」という子供がいることは聞いたことはあります。児童館の様子も可能な限り調べてみて、共有したいと思います。

【稲垣会長】

このあたり、実は他の自治体でも課題になっていまして、自治体によっては「児童館も全部使えるようにしているよ」と積極的に話しているところもありますし、一方で環境を作っても、児童館のスタッフが子供は何やっているのかわかんないのだけど、みたいな話も出てきたりはしています。今後、そういった情報交換をどうしていくのか、という話も次の GIGA は、学校の中だけでどう使うかという話からもう少し広い範囲で子供の学びを支えていく形に変わっていくと思います。それは、社会教育、それから児童館もそうですし、不登校の子供たちなど色々な子供たちにとっての学びのインフラをどう作るのかという観点から、今後のビジョンを作っていくときに考えていただけたらいいかなと思っております。

前回、会議の最後に、もう少し「個別最適な学び」や「授業改善の方向性」の話が議論になるといいですねとお話しをしましたが、今日どちらかというとインフラ的な話は十分できたとは思いますが、教育自体がどう変わっていかうとしているのかということについての議論がもう少しできるいいかなと思っております。先ほどお話しした、学力学習状況調査で、どういう学び方をしているのかというところあたりが、今 GIGA スクール構想の活用が進んでいる学校とそうじゃない学校で、全然学び方が違っていたりと、実際起きている現状がありますので、そういったデータも含めて、議論できるような体制を作っていただきたいかなと思っております。